

私の名盤レコード 4. アル・ディ・メオラ (Ai Di Meola) 編

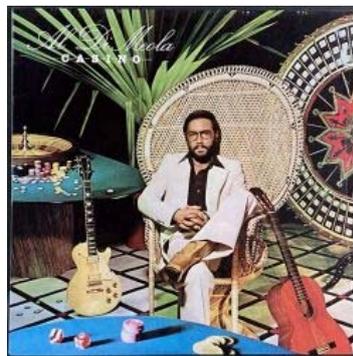
私の最も好きなジャズ系ギタリストは、アル・ディ・メオラ（以降 アルと言います）であります。大学3年生の後半、ろくに勉強もしないでラリー・カールトン、リー・リトナーなどアメリカのミーハーなフュージョンギタリストを聴いてそのプレイを耳コピーしていた頃、札幌のタワーレコードでアルのアルバムを2枚買いました。名前は知っておりましたが曲は聴いたことはありませんでした。「Elegant Gypsy (エレガント・ジプシー、出典 Columbia Records 1977年)」と「Casino (カジノ、出典前同 1978年)」の2枚です。聴いた途端にぶっ飛びました。速



弾きで有名でしたが、これは人間業ではないと思いました。また、曲が主にマイナー調でリズムはロックやラテン的であり、難解なジャズとは違い、ラテン系、フラメンコ系、中東系なのか、分かりやすいと思いました。当時、アルが使っていたスケールは主にマ

イナースケール(エオリアン、ドリアン、フリジアンなど)で音はある程度理解できたものです。しかしながら、その速度です。速い曲では16部音符、遅い曲では32部音符なんでしょうか、アドリブで多いのが超早い3連符、6連符で、驚きなのはピッキングの正確無比なところ。すっかりはまりました。

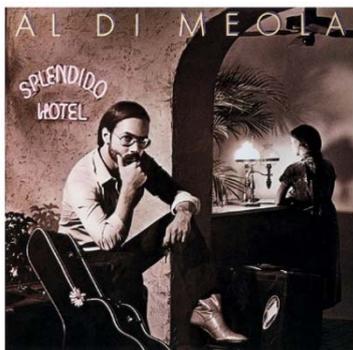
これは弾けたらカッコイイな、と思い立ったのが若気の至りでした。音は理解できるので後はスピードだ、と思いコピーを始めました。「Mediterranean Sundance (邦題 地中海の舞踏)」、「Elegant Gypsy Suite (邦題 エレガントジプシー組曲)」、「Race with Devil on Spanish Highway (邦題 高速悪魔のスペインハイウェイ)」、「Fantasia Suite for Two Guitars (邦題 幻想組曲)」などにチャレンジ、粉碎しました。簡単そうに聴こえて全然ピックがあたらないメロディ



ー、もつれる指、指がとどかないポジション、合わせるのが難しいリズム、アドリブも連続的ではなく音階が飛び交う超難度。それでもあきらめずに練習しましたが、そのうち「これは一生弾けないかも」と心の中でつぶやきました。もう68歳になりますが、未だにまともに弾けておりません。

次に好きなアルバムが、「Splendid Hotel (スプレンドイド・ホテル。出典前同 1980)」の2枚組で、アコースティックギターの名曲、一人で多重録音の「Splendid Sundance (邦題 スプレンドイド・サンダンス)」とチック・コリアとの感涙のデュオ「Two to tango (邦題 ふたりでタンゴを)」が最高です。この当時、アルが使うアコースティックギターは

Ovation (オベーション) USA 製で、バック材にカーボングラファイトを使用した、バックが丸いもので、独自のとても良い響きが気に入りました。このギターで、3連、6連符などを弾く際に、右手でギターのブリッジあたりを軽く抑えてミュート (減音) する「ミュートラ」という奏法が、アルの一つの特徴で、精密な高速ピッキングは比類なきものです。



私も Ovation USA のギターが欲しかったのですが、当時は1ドルが270円位、1本30~50万円もするので手が出ませんでした。その後の円高のおかげで、現在10本ほど持っております。

アルが出したアルバムは、おそらく50枚位ですが、私は今回紹介した初期の3枚が気に入ってます。その後、歳とともに音楽が高度になっていき、ピアソラ (アルゼンチンタンゴの巨匠) の曲をやったりで、難度が上がっていきました。

また、チック・コリアのバンド「Return to Forever (リターンズ・フォーエバー)」のアルバム「Romantic Warrior (邦題 ロマンの騎士、出典 polydor Records 1976年)」でのアルのプレイも好きです。アルのことを書くと、きりがないのでこのあたりにします。

息子が中学後半からギターを始め、オヤジと同じくアルにはまりました。高校3年くらいになると息子はオヤジを超えました。オヤジが弾けないアルの曲を結構ともに弾けるようになりました。おかげで、アルの曲も含め3回ほど息子とライブをやりました。「地中海の舞踏」「幻想組曲」「スプレンドイド・サンダンス」などテーマ+適当アドリブでのパフォーマンスです。オヤジ50台前半、息子20台前半の頃で、ろくに練習もせずよくやったものです。この頃のライブ動画が今でも YouTube にあります。ちょっと恥ずかしいです。

今ではすっかり68歳のグランパになりました。今のところ孫2人です。ちなみに、アル・ディ・メオラは現在71歳となりますが、精力的にアルバム制作やライブで活躍しております。

2026年2月 士別軌道の社長 井口 裕史 68歳